

2012年度(2013年3月期) 第3四半期決算説明会



2013年1月31日

大正製薬ホールディングス株式会社
常務取締役 酒井 明人



2012年度第3四半期決算：概要

(億円)

	2011年度 3Q累計	2012年度 3Q累計	前年同期比 増減	
売上高	2,112	2,203	+91	+4.3%
セルフメディケーション	1,301	1,330	+28	+2.2%
医薬	811	873	+62	+7.7%
営業利益	349	308	▲41	▲11.9%
経常利益	411	379	▲32	▲7.7%
四半期純利益	210	218	+8	+4.0%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2012年度第3四半期の概況(1)

- セルフメディケーション事業(大正製薬 国内)
 - 第2四半期までと傾向は変わらない
 - 主要ブランドの実績(前年同期比):
 - リポビタンシリーズ(4.0%減):
 - リポビタンD(5.8%減)
 - その他シリーズ品は横ばい
 - パブロンシリーズ(2.0%増):総合感冒薬が堅調
 - リアップシリーズ(2.0%減):既存品(1%製剤)が苦戦
 - リビタシリーズ(24.3%増):新製品が寄与

<ご参考:市場の状況>

– OTC医薬品市場

2012年度4~12月:前年同期比▲2.6%

(インテージSDIデータ、金額ベース)



2012年度第3四半期 主要ブランド売上高

(億円)

	2011年度 3Q累計	2012年度 3Q累計	前年同期比 増減	
リポビタンシリーズ	566	544	▲23	▲4.0%
パブロンシリーズ	188	192	+4	+2.0%
リアップシリーズ	111	109	▲2	▲2.0%
胃腸薬シリーズ	33	34	+1	+2.0%
ナロンシリーズ	32	32	▲0	▲0.7%
リビタシリーズ	29	36	+7	+24.3%
コーラックシリーズ	29	28	▲1	▲4.7%

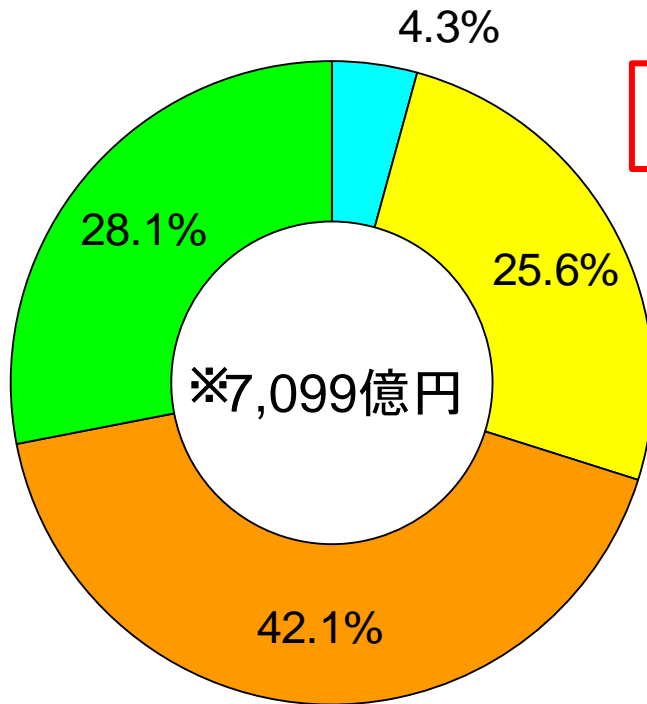
注:金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



OTC医薬品分類別構成比

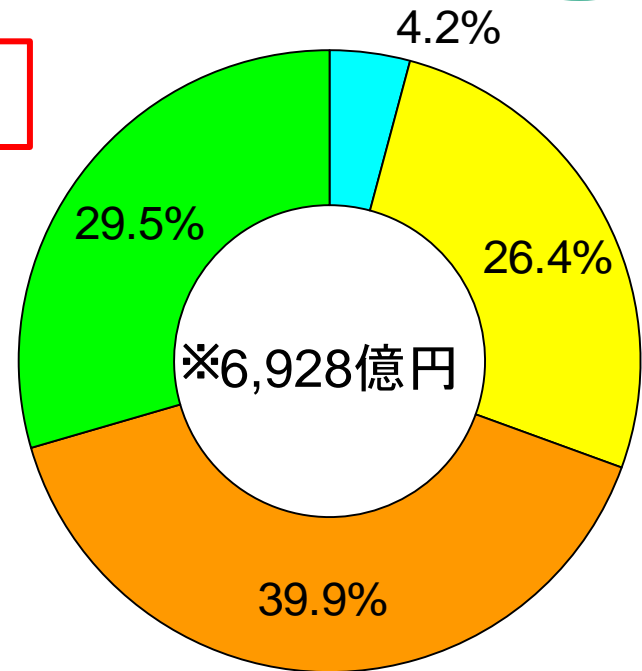
国内OTC医薬品市場における構成比 ※ 分類不明分は除く
(2011年4-12月) (2012年4-12月)

第1類の
前年比
95%



部外品を除く

前年比
98%



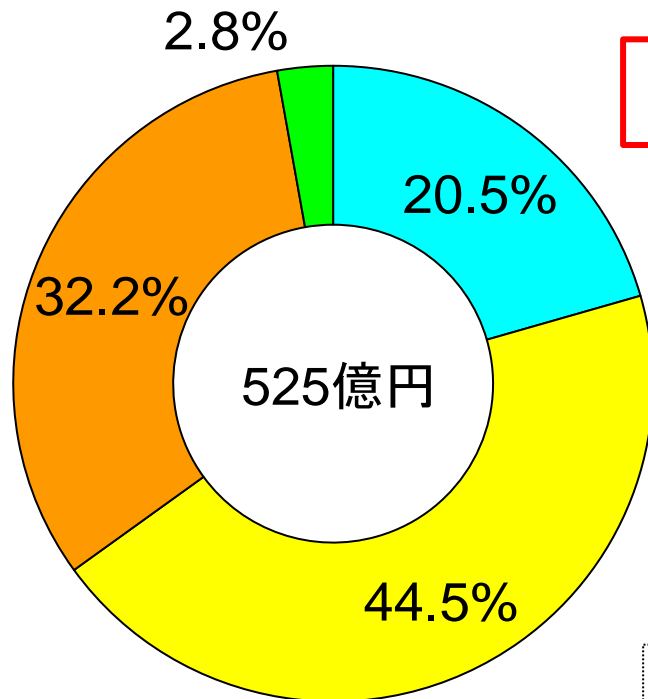
- 第1類
- 指定第2類
- 第2類
- 第3類

(インテージSDIデータ2013年1月時点、金額ベース、各年4-12月累計)



当社のOTC医薬品分類別売上構成比

2011年4-12月

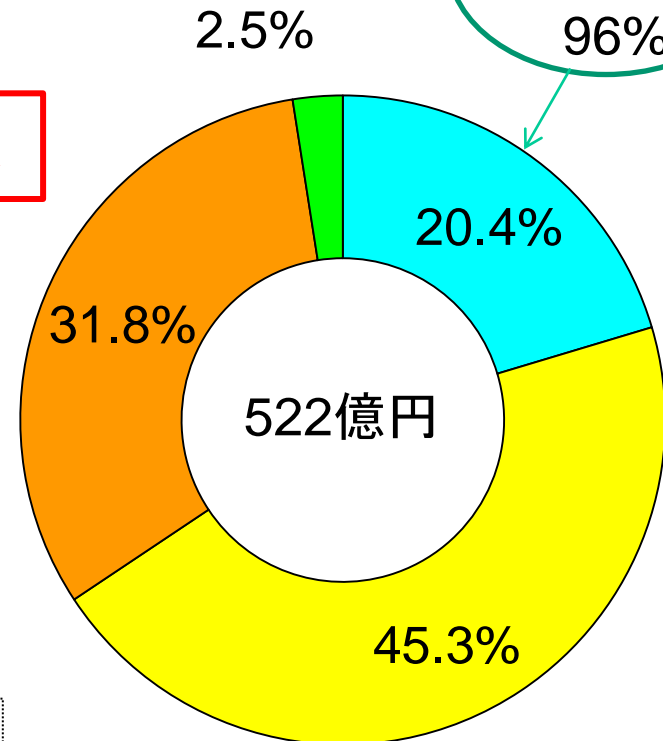


部外品を除く

前年比
99.3%



2012年4-12月



第1類の
前年比
96%



2012年度第3四半期の概況(2)

• 海外OTC医薬品事業：売上高

(億円)

	2011年度 3Q累計	2012年度 3Q累計	前年同期比 増減
海外OTC医薬品	48	66	+19
BMS社からの買収分	40	41	+1
Hoe社	6	19	+14
CICSA社等4社	-	4	+4
その他	2	3	+0

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

-BMS社からの買収分：

タイ、インドネシアを中心に、計画に対し順調に推移

-Hoe社分：2012年度から通期で寄与

-CICSA社等4社：当3Qから寄与



2012年度第3四半期の概況(3)

• 医薬事業

– 大正富山医薬品:

- 売上高: 772億円 (前年同期比7.0%増)

– 感染症領域:

ゾシン、オゼックスが引き続き好調

クラリスは薬価改定等の影響により減少

大正富山医薬品の抗菌薬市場*シェア: 20%

(*J01抗菌薬市場)

– 炎症・免疫領域:

エディロールが投薬期間制限解除により伸長

<ご参考: 市場の状況>

- 医療用医薬品市場: 前年同期比+0.2%

- 当社の主力市場である抗菌薬市場は▲5.8%

(経口: ▲5.4%、注射: ▲6.4%)

(Copyright 2013 IMS ジャパン(株)、JPM2011年・2012年(4-12月)をもとに作成、無断転載禁止)

大正富山医薬品：2012年度第3四半期 主要製品売上高



(億円)

	2011年度 3Q累計	2012年度 3Q累計	前年同期比 増減	
クラリス	160	139	▲21	▲13.0%
ゾシン	136	166	+29	+21.6%
パルクス	75	67	▲8	▲10.0%
オゼックス	45	66	+21	+47.1%
ジェニナック	48	47	▲1	▲2.4%
ロルカム	26	24	▲2	▲8.7%
エディロール	12	61	+50	+433.0%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2012年度3Q：売上高・利益の増減要因

(前年同期比増減額)

売上高 (+91億円)	セルフメディケーション事業 (+28億円)	医薬事業 (+62億円)
営業利益 (▲41億円)	売上総利益* +22億円 (売上総利益率* 前年同期63.8% → 当期62.1%)	
	販管費 +63億円 (主な販管費の増減)	
	・研究開発費 ▲7億円	
	・広告宣伝費 +0億円	
	・販売促進費 +13億円	
	・人件費 +17億円	
	・その他 +40億円(システム関連費用等)	
営業外損益: 持分法投資利益 14億円(前期 10億円)		
特別損益: 投資有価証券評価損 22億円		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2012年度：通期業績予想

(億円)

	通期予 (新)	前期比増減		通期予 (旧)	予想 修正額
売上高	2,855	+143	+5.3%	2,870	▲15
セルフメディケーション	1,718	+53	+3.2%	1,763	▲45
医薬	1,137	+89	+8.5%	1,107	+30
営業利益	355	▲29	▲7.6%	365	▲10
経常利益	438	▲24	▲5.2%	445	▲7
当期純利益	265	+21	+8.8%	265	-
EPS(円)	327.49	-	-	327.48	-
(参考)					
大正富山医薬品売上高	1,000	+69	+7.4%	970	+30

予=予想

注:金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2012年度：通期売上高予想

(億円)

	2012年度 旧予想	2012年度 新予想	対従来予想比	主な内訳
売上高	2,870	2,855	▲15	
SM	1,763	1,718	▲45	大正国内SM ▲45
医薬	1,107	1,137	+30	大正富山 +30

注：金額は億円未満四捨五入

- セルフメディケーション事業

- 大正製薬(国内)の売上高予想：下方修正(▲45億円)

- リポビタンシリーズ ▲26億円

- リアップシリーズ ▲7億円

- 医薬事業

- 大正富山医薬品の売上高予想：上方修正(+30億円)

2012年度通期：主要ブランド・製品売上高予想



(億円)

	2012年度 新予想	前期比増減		2012年度 従来予想
リポビタンシリーズ	664	▲29	▲4.1%	690
パブロンシリーズ	261	+3	+1.1%	260
リアップシリーズ	141	▲1	▲0.6%	148
胃腸薬シリーズ	44	+1	+2.5%	44
ナロンシリーズ	41	+0	+1.2%	42
リビタシリーズ	48	+8	+20.2%	50
コーラックシリーズ	38	▲0	▲0.2%	40
クラリス	192	▲24	▲10.9%	195
ゾシン	212	+36	+20.5%	210
パルクス	86	▲8	▲8.1%	88
オゼックス	90	+29	+46.6%	75
ジェニナック	61	-	-	61
エディロール	85	+67	+363.5%	70

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2012年度通期：海外OTC医薬品事業

(億円)

	2011年度 実績	2012年度 従来予想	2012年度 新予想	前期比 増減
海外OTC医薬品	62	100	97	+35
BMS社からの買収分	49	54	56	+7
Hoe社	10	29	29	+19
CICSA社等4社	-	10	7	+7
その他	3	7	5	+2

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

- BMS社からの買収分：計画に対し順調に推移
- Hoe社の業績：今年度から通期で寄与
- CICSA社等4社連結・オソサパ社合併：
 売上高の予想を修正



2012年度通期予想： 売上高・利益の増減要因

(前期比増減額)

売上高 (+143億円)	セルフメディケーション事業 (+53億円)	医薬事業 (+89億円)
営業利益 (▲29億円)	売上総利益* +44億円 (売上総利益率* 前年同期63.5% → 当期61.9%)	
	販管費 +73億円	
	(内訳)	
	・研究開発費	▲3億円
	・販売促進費	+11億円
	・広告宣伝費	+10億円
	・人件費	+22億円
・その他	+34億円 (システム関連費用等)	
営業外損益: 持分法投資利益 12億円(前期実績 12億円)		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



セルフメディケーション事業：新製品

エパデールT：2012年12月28日承認

<2012年度の主な新製品 >

<上期 >

ファットケア スティックカフェ
ミドルケア 粉末スティック
リポビタミンDキッズ

など

<下期 >

パブロン点鼻クイック
リアップジェット
コーラックファースト
ナロンメディカル

など

赤文字：発表・発売済みの製品



医療用医薬品：新薬パイプライン(1)

大正製薬開発品：国内

(2013年1月31日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
申請中			
CT-064* (注射)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
クラリス錠 200(経口)	プロトンポンプ阻害薬及びアモキシシリン 水和物を用いた3剤併用による ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎(適応追加)	アボット ジャパン 他 (9社共同)	大正製薬
フェーズ3			
TS-071** (経口)	<u>SGLT2阻害作用</u> 2型糖尿病	自社	大正製薬
CT-064* (経口)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ

*CT-064：一般名：イバンドロン酸ナトリウム水和物、中外製薬における開発コードはRG484

**TS-071：一般名：ルセオグリフロジン水和物



医療用医薬品：新薬パイプライン(2)

大正製薬開発品：国内(続き)

(2013年1月31日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ3(続き)			
TT-063 (外用)	<u>エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤</u> 変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン
フェーズ2			
NT-702 (経口)	<u>気管支拡張作用、細胞浸潤抑制作用</u> 気管支喘息	日産化学 共同	日産化学
NT-702 (経口)	<u>血管拡張作用、血小板凝集抑制作用</u> 閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行	日産化学 共同	日産化学
パルクス (注射)	<u>プロスタグランジンE1製剤</u> 腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行 (適応追加)	自社	大正製薬/ 田辺三菱製薬

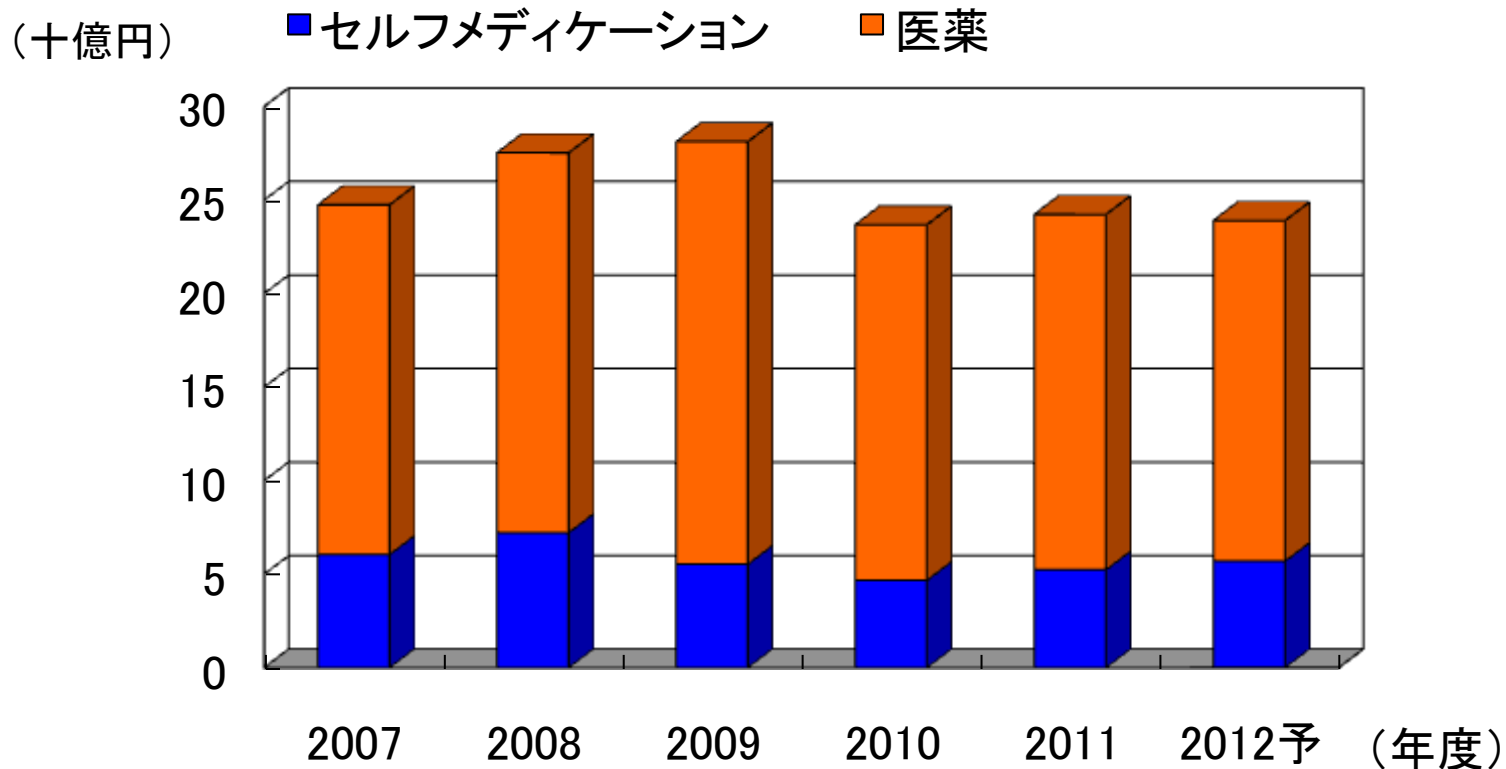


研究開発費の動向

2012年度3Q実績: 167億円 (前年同期比▲7億円)

2012年度計画: 252億円 → 239億円に下方修正

(前年同期比▲3億円)





トクホンとの連携

- フルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤の販売開始

- 医療用消炎鎮痛貼付剤

- 「ヤクバン®テープ」

- 「ステイバン®パップ」

- 「フルルバン®パップ」

4月1日から大正富山医薬品が販売

- トクホンが田辺三菱製薬、祐徳薬品工業との販売委託契約を終了し、新たに大正富山医薬品と契約するもの

- 但し、ヤクバン®テープは引き続き、科研製薬*が併売、

- フルルバン®パップは同じく科研製薬*と三笠製薬*が併売

(*リードケミカル経由)



大正富山医薬品
「炎症・免疫領域」
製品ラインアップの拡充

両社の連携による
売り上げの最大化